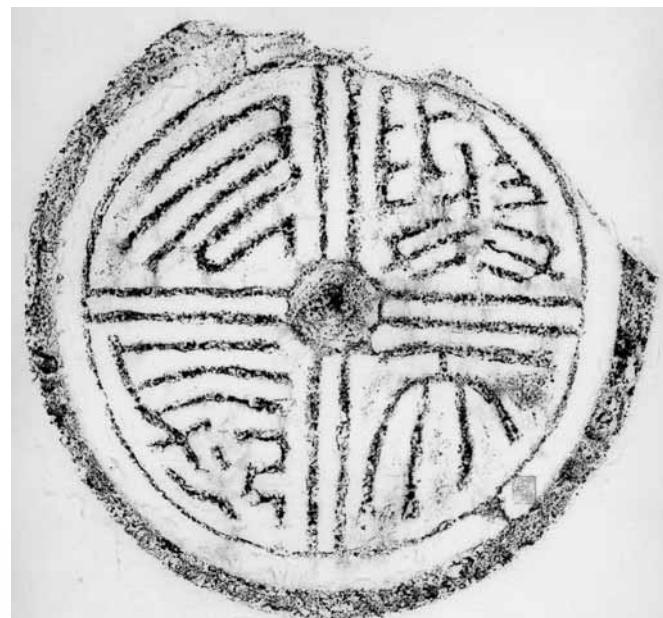
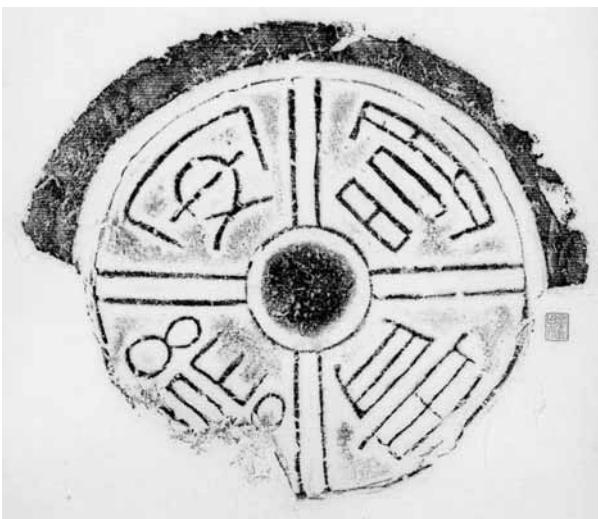


(図版①)



(図版⑤)



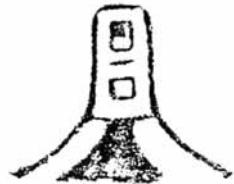
A 甘



B 泉



C 宮

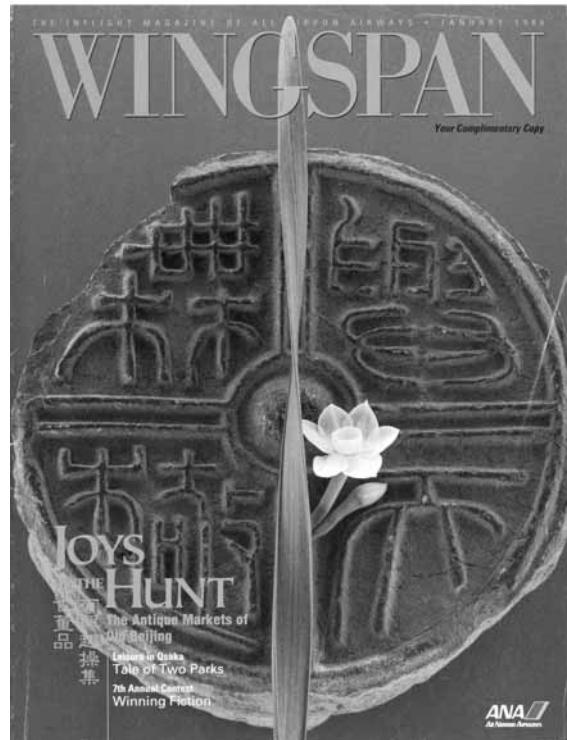


(図版④)



「落ち穂拾い記」④ 『瓦当文』(下)

(図版③)



(図版②)

1995年に「秦漢瓦当文」を仕上げた時期は、中国经济の進展につれ、土地の開発整備が多く行われたために、瓦当の発見も多く、西安や山東などでは、民間に瓦当の専門の収集家が現れ、彼らとの交流も生まれた。北京の路東之（北京陶文明博物館館長）を始めとして西安の「瓦当王」と称されていた任虎成（西安瓦磚博物館館長）や山東の王也（山東省国瓦当藝術館館長）等の所蔵する珍しい瓦当の拓本などが多く得た。その頃、日本で戦前に日本に将来された大変珍しい数件の瓦当を入手した。「富貴安樂」「與天久長」「與天無極」等の吉語の瓦当（図版①）であり、特に第一、第二の吉語瓦当は、同範から造られた瓦当はほとんど見る事がなく、大変珍しい瓦当であった。戦前や戦後の各種の瓦当文を収録した著作に掲載されている拓本図版は、家蔵に帰した瓦当文からのものである。戦前にこの瓦当を拓した篆刻家・園田湖城が残した拓本資料に、京都の藤井有隣館所蔵と記されていた。第三の「與天無極」瓦は、ANAの国際線の1996年の一月号の機内誌の表紙に、中央に水仙の白い花があしらわれ用いられた（図版②）。また2010年の春に、中国古文「瓦文字の面白さ」、近年出土秦漢瓦当文拓本を中心とした瓦当文展を開催させていた。新出の珍しい瓦当拓本と瓦当資料を主に、これまで収集した各種の原瓦も並べた（図版③）。こうした著作、展覧活動の過程で、珍しい瓦当文で、常に取り上げてきた「宮」の字と解説されていた瓦当文（図版④）を、西安の知人の周曉陸氏が、「考古与文物」誌（2008年1期）上で、この瓦当文を「甘泉宮」の三字であると釈された。この優れた見解には、驚いた。旧来の「宮」字と釈した瓦を、ABCの三部に分け、それを甲骨文、楚の「帛書」や瓦当文、三体石經に使用された篆書資料と比較され、Aを「甘」、Bを「泉」、Cを「宮」とされた（図版⑤）。この瓦当文は、恐らく天下に一件しか確認されていない大変珍しい作であり、曲線を多用した実に美事な文字構成であろう。

伊藤滋（書齋名・木鶏室）

書道芸術院

令和の群像 (2023)



第72回毎日書道展会員賞受賞作品 「見得思義」

大内熒軒書

|| 書といふ響き ||



大内熒軒

習字を始めたのは、小学2年生ころだったかと。種谷扇舟先生宅で習うようになりました。記憶は定かでないが、1作目を提出した時、半紙の下部に朱で年月日を書いていただきたと思います。以来約半世紀、続いたのは「字を書く」ことが好きだからなのだろう。

私たちの生活は文字を書く機会が減りました。パソコンの普及は、たしか平成10年を過ぎた頃だったように思います。文字は今、書くから打って印字する、さらに音声が文字に変換される時代になっています。

A.I.やD.X.（デジタル・トランスフォーメーション）という言葉も毎日のように耳から入るので、これから社会はどうなっていくか気になります。

日頃、デジタルとアナログの共存が大事だと思っていて、何年か前のテレビ番組、「居酒屋でテーブルに置かれた『印字した文字』、『手書き文字』のメニューで、お客様はどうちらの方が注文するのか。結果、注文が多かったのは手書きメニューでした。」

画一的な文字よりも手書きが選ばれたことに筆跡の力を感じました。そのお客さんも手書きの方が……と答えていました。これと同じような話で、千葉市内にある繁盛している魚屋さんの店内POP広告の大半が筆文字で、いや～これがよく目立つんで

す。これから時代も、情緒豊かで創造的な心、幅広い感情を育む芸術的分野の情操教育（書、絵、図工、音楽など）を大切にする社会であってほしいと思います。

書作品は人それぞれ。白と黒の世界、線の芸術であり、潤滑、細太、筆の種類などによって多様な線が交錯し鑑賞者を楽しめます。漢字は長い歴史があり、各書体には創作のための基礎とヒントがたくさんあります。臨書と創作の繰り返しは、表現の幅を広げます。同時に新鮮な気持ちで書作に臨むことができます。書は、書く人と観る人の無言のコミュニケーションです。

写真は第72回毎日書道展会員賞作品です。この大きな節目は私の書の年表に刻まれました。不勉強な私ですが、これからは今まで以上に様々な学びを引き出しにして、感情豊かな中で「書」に取り組みたいと思います。

結びに、私たちに文字は欠かせません。筆でも硬筆でも「書いた文字の力」を大事にしたい。やっぱり、「書」という響きはいい！

書のひろば

理事長 下谷洋子

創立75周年記念書道芸術院展

香川峰雲先生遺作展示作品

成田山書道美術館に収蔵決まる

第74回毎日書道展 事務局合同会開催

4月13日(水)、如水会館にて第74回

毎日書道展に向けた事務局会議が開催されました。昨年同様各部主任以上と一部委員の出席で行いました。

まず初めに、第74回展実行委員長の片岡重和先生の厳しくも力強い開会の挨拶に、出席者一同緊張に包まれました。続いて総務部長山中翠谷先生、審査部長赤平泰処先生、陳列部長丸尾鑑使先生が、それぞれ今回展に対して熱いメッセージを送り、毎日新聞社や書道会理事・監事他担当役員の紹介などもありました。事務局からの連絡のあと、各担当に分かれての打ち合わせに入りましたが、コロナ以前とは異なり出席者も大幅に減少し、懇親会も開かれないとさか寂しい船出となってしまいました。

公募、会友の皆さん、作品は仕上がりましたか？ 5月15日から搬入が始まります。

昨年、院創立の功労者で、第3代会長を務められた香川峰雲先生の遺作を展示しましたが、それらの全てが、成田山書道美術館に収蔵されることになりました。香川倫子先生ご一家のご協力と成田山書道美術館のご賛同を得て、印材、用具用材は全て桐箱に入り、刻字作品も新しい箱を用意しています。

峰雲先生の、今日なお新鮮な代表作品の数々が、これからも末永く書道藝術文化の発展充実に寄与されることを願い、本院としましても安堵しています。 箱書きなど準備が整い次第、成田山書道美術館にて香川家ともども寄贈式を行ふ予定ですので、その内容はまたご報告します。

春の「書道芸術」 特別昇段級試験審査終了

4月末、春の特別昇段級試験の審査が無事終了しました。三種はかな・漢字条幅で、昨年よりもやや増加しましたが、これは4月より月例競書出品規定が改訂されたことによるものと思いま

ます。総評や各部短評、師範合格者模

範作品などは6月号に掲載します。今回原級留置きや思うように昇級された方は、また来年に向けて研鑽を積りますようお願いします。漢字やかななどの各臨書は毎年同じ古典(古筆)ですので、普段から計画的に取り組まれることをお勧めします。

五島美術館で

“古今和歌集を愛でる”展

4月1日から5月7日まで、世田谷の五島美術館にて古今和歌集を中心には春の優品展が開催されました。

古今和歌集は、平安時代前期醍醐天皇勅命によって編纂された日本で最初の勅撰和歌集です。今回は、古今和歌集を書写した平安・鎌倉時代の古筆切集を中心に展示されました。

かなは皆同じに見えて苦手な人も多いかと思いますが、同じ和歌でも書き手や時代によって多様な姿をしてしまいます。使われている用紙に注目されるのもよいでしょう。展覧会も通常の展覧になってしまった。是非機会がありましら本物の古筆の美にも触れて趣の違いを味わって下さい。



第67期受講生募集 平安書道研究会

一般社団法人書芸文化院は、飯島春敬先生が昭和24年に古典書道の学問的研究を目的として創設されました。さ

らに昭和25年から毎月一回東京国立博物館の大講堂で、名筆資料を出陳して講義を行う「平安書道研究会」が結成され今日まで続いている。

将来書家を志す人、また書に深い興味を持っている人は、奈良・平安の名筆を直接鑑賞できる機会でありますので、積極的に参加して下さい。

問い合わせ先 平安書道研究会

TEL ○三(5)八一〇七一七
FAX ○三(5)一一一八九〇

書道芸術院事務所職員再編成

書道芸術院の事務所は、現在事務局長の片岡豪峰先生を中心に、今年度から次長に佐藤葉扇先生を迎え、他7人のメンバーで仕事をこなしています。

事務的な分担は「書道芸術」誌が三浦英樹・相内沙莉さん、「学生版」は田畠明琴さん、会計は近藤尚子・坂本龍水さん、編集は新しく「書道芸術」誌が佐藤希雲さん、「学生版」は種谷悠輝さんになりました。問い合わせやご意見などありましたら、遠慮なくご連絡下さい。

現代詩文書基礎基本講座 (36) 小竹石雲

◆風信帖

①写実的臨書

原帖



頂戴



②発展的臨書

特徴

【風信帖】空海 平安時代(812~813年頃)空海から最澄に宛てた手紙三通を一巻の巻子にしたもので、冒頭に「風信雲書」とあることからこの名がついた。他の二通は忽披帖、忽惠帖ともいわれている。中国から帰国後の書で、四十歳頃に当たる。

- ①写実的臨書
 - 特に一通目は羲之の書法をよく学び重厚で落ち着きがある。
 - 日本的情趣をうかがわせる筆触からは和様の萌芽を感じられる。
- ②発展的臨書
 - 兼毫中鋒で骨力と骨格の安定性に重点をおき臨書した。
 - そうすることで余白に緊張感、清潔感が生まれてくる。
 - 線がかたくならないように、体の力を抜いて楽に書けるといですね。

基礎基本講座

前衛書基礎基本講座 (12)

千葉蒼玄

前回の組み合わせの例として“量”的篆書の造形を作品にしてみると

〈作例〉



この様な作品を作つてみた。この制作の過程を分解すると
始めに二つの要素、高下、方円を制作する

(1)高下

(2)方円

高

下

方

円



(1)は、上は上方に線を集中、下は下方に線を集中。
(2)は、上は、量の外形を長方形に、下はだ円形にする。

次に、この二つの要素を組み合わせると

(1)と(2)

(1)と(2)

(1)と(2)

(1)と(2)

(1)と(2)

(1)と(2)

(ロ)と(ハ)の組み合わせで作ったのが、〈作例〉である。題名は自分の思いでよが、文字を素材とした場合“RYOOU”と音で題名を付ける場合もある。



（ロ）と（ハ）

特集：第76回書道芸術院展

員長による展覧会概要、審査部長による審査報告、常務理事による学生展概要の説明が行われた。

○評論家の眼

(公財) 出光美術館の笠嶋忠幸様、毎日書道会理事・貞香会会长の赤平泰凪様に依頼、作品評価をいただいた。批評は作品脇に掲示し、さらに印刷して参観者にも配布した。

「笠嶋忠幸」の眼

上岡まゆみ、栗原りか、半澤香艸、伊藤桂月の各氏。

「赤平泰凪」の眼

阿部恵泉、太田蓮紅、前田龍雲、鍛治翠香、富澤白雲、寺尾京華の各氏。

○「書道芸術院推選作家展」出品者の足跡

昨年秋季展併催としてアートサロン毎日で開催した企画展は、その後の作家の足跡として、会場内に集約して陳列した。

○作品解説会

2月8日10時から無鑑査・一般の解説会、14時から推選作家展出品者の作品解説会を会場で行った。2月11日10時から役員による作品解説会を行った。

○ワークショップ

2月11日前、企画委員を中心となり、学生展の会場にてカレンダー作りの内容で実施した。

○全国学生書道展表彰式

2月5日表彰式に先立つて午前10時より、学生展会場において、大賞受賞者による席上揮毫会を行った。会となった。

その後午後1時より、帝国ホテル

富士の間において、毎日新聞社総務部長山之内郁治様をお迎えして表彰式を挙行した。

○表彰状授与

下谷洋子運営委員長はじめ財団理事・監事が務めた。毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞については山之内郁治様にお願いした。同会場にて、書道芸術院展の表彰式が挙行された。ご来賓は、毎日書道会総務部長堀内宏明様をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞は下谷洋子運営委員長より授与。以下の賞については、財団理事・監事により授与。

ご来賓の堀内宏明様には毎日新聞社賞の授与とともに激励のご祝辞をいただいた。

○総務部

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、陳列準備、撤回、搬出まで、東福青篠、長島倦雨、お二人の部長には、長期に亘りご苦労願った。

○審査部

学生展は川島舟錦審査部長、一般は坂本素雪審査部長のもと、事務局総務部と連携し、コロナ禍の中、審査、事務処理ともに順調に進めていた。

○会計部

会計部はやはりコロナ禍で不自由な中、学生展と第76回展の全てに亘り、滞りなく処理していただき、事務

業終了後の残務も含め、近藤尚子担当に感謝。

○運営事務局

今回も、院展、学生展ともに、運営の全てに新型コロナウイルスの影響を受け、運営事務局には、多大なご苦労をおかけした。また、各部の当番審査員並びに事務委員の人数割り出しをはじめとした各種業務を各部署と連携して事務処理にあたっていただけた片岡豪峰事務局長・佐藤菜扇事務局次長には、深く感謝申しあげます。



ワークショップ



運営委員



院展表彰式

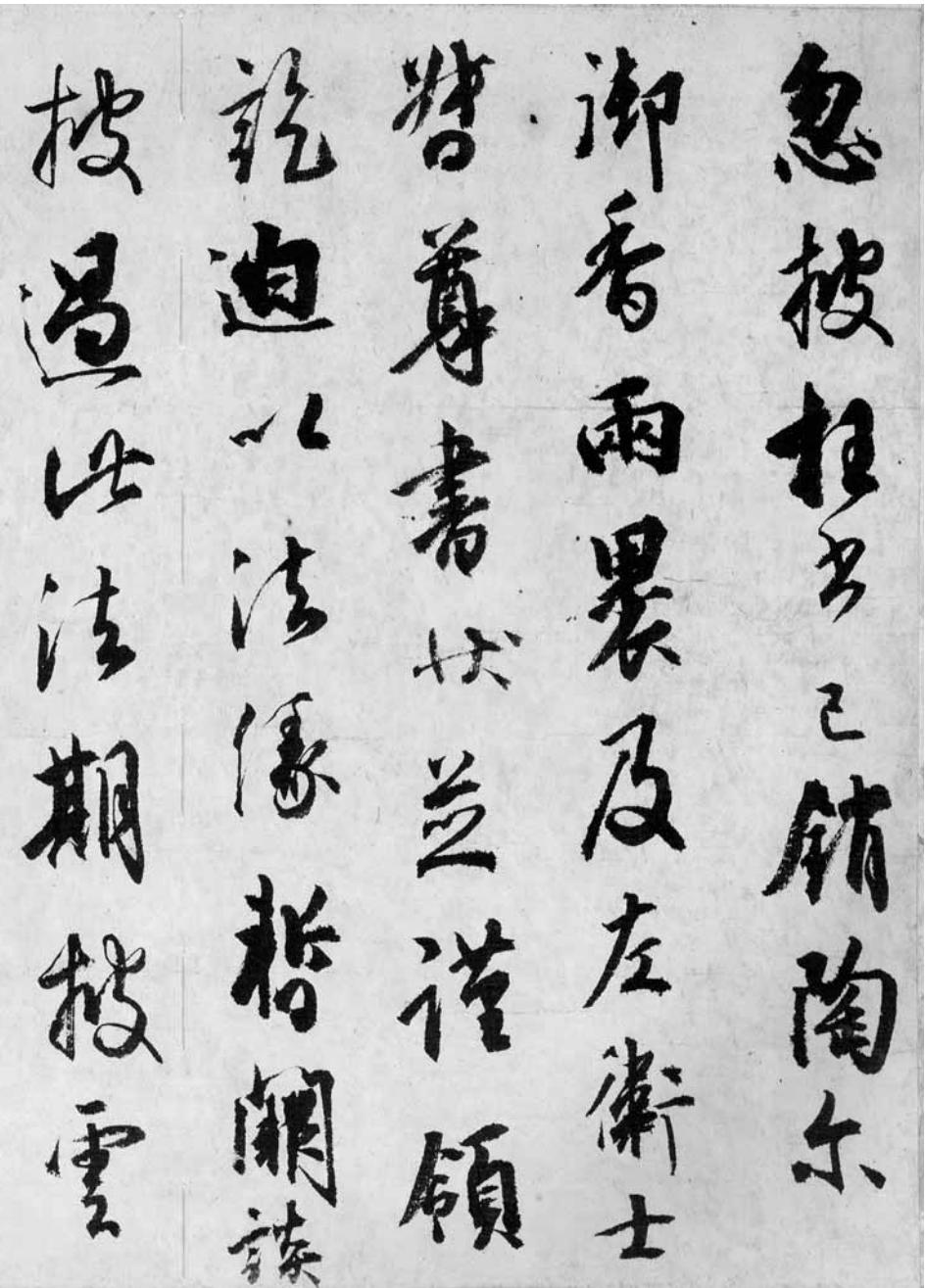
空海 ふうさんじょう
風信帖 ②

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。
(B.A. 大作の部 每日晨審金・晉賞サイズ以内、2×6尺・金紙も可)
(B. 小品の部 当切以上半切以内金紙以内も可) (A. 日報官印)

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

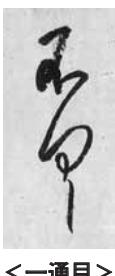


(東寺藏)

(掲載図版・60%に縮小)

〈解説〉

今月は、風信帖二通目の「忽被帖」。仏事で忙しいため、その終了後にあらためて返信することを伝える内容である。宛名は書いてないが、最澄にあてたものと推定されている。比較のため、それぞれの「不具」を示してみる。



<一通目>



<二通目>



<三通目>

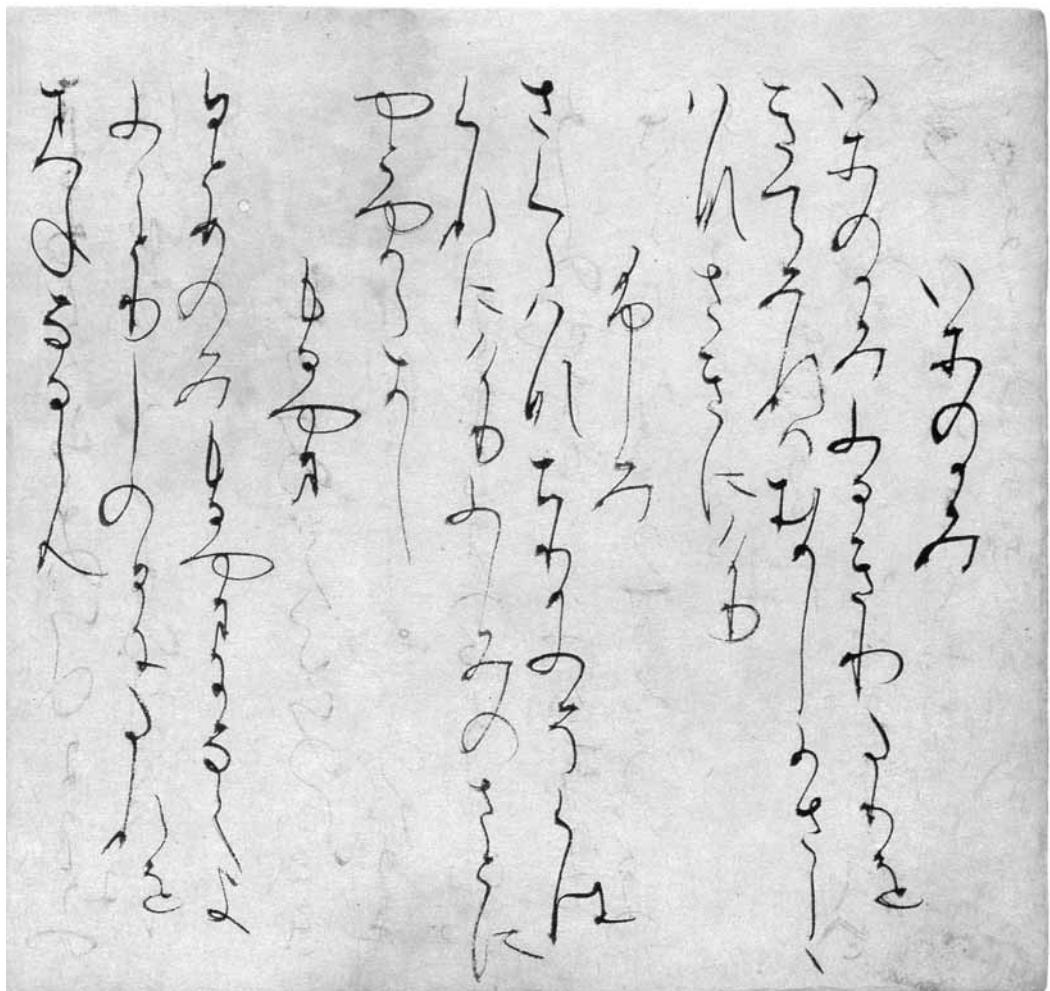
忽被枉書、已銷陶尔。/御香雨累、及左衛士/督尊書状、並謹領/訖。迫以法緣、暫闕談/披、過此法期、披雲。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半便紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
大作の部=毎日展覧会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
小品の部=半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。△

※掲載図版は原寸



(出光美術館蔵)

〈よみ〉

いそのかみふるきわたり所 可 多利
さくらばなぢりかふ所 可 多利
くれにけりふしみ所 可 多利
はなさきにけり所 可 多利
ふしみ所 可 多利
さくらばなぢりかふ所 可 多利
くれにけりふしみ所 可 多利
はなさきにけり所 可 多利
あるやま万 小久
ひとめのみあるやまになくよ万 小久
ぶこどりしのびにたれを万 小多
まつねなるらむ万 元

〈解説〉

「古筆鑑賞」の「中務集」は出光美術館所蔵のものを紹介している。楮紙を用いた冊子本で、本文には藤原定家が加筆修正を施した箇所がある。臨書の際は訂正前のもとの線を再現するほうがよいでしょう。

△今月の表紙

出光本の一頁目をアレンジしてみた。流麗な線で、「なかつかさがしむ」とあり、もとはこれが表紙だったと推定される。右肩の引き点は定家の筆とされる。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名(もしくは〇〇臨(押印のみも可))

坂本素雪

壽山福海
(禪語)

（禅語）

人の長寿を祝うことば

長寿を祝う言葉ですので、どっ

しりと落ち着いた味わいのある作

風で表現。

「寿」バランスの難しい字形ですが、挑戦して戴きたい。最後の点で重心のバランスを取り調整するのですが、私はこの点のみに何十回書いた事か。気になるとなかなか終わらないものである。

「山」左を大きく空けて右を密にする。

「福」偏と旁の間隔を離れ過ぎないように注意する。

「海」縦線は同じ線質にならないように、味わいのある線を求めて欲しい。



大平邑峰

心静興長
(心静かに興長し)
(張懿)

心は静かで感慨は深い。



書体＝楷書

今日は、前回の鐘繇の書も習つたとされる書聖王羲之の細楷を参考にしてみました。王羲之の書としては楷・行・草いずれにも典型的な古典が残っていますが、楷書学習においても是非取り上げて貰いたいと思います。羲之の楷書は鐘繇に比べると洗練された雰囲気がありますが、黄庭經等の自然な筆の開閉や、柔軟且つ伸びやかな線質には鐘繇の風韻を感じます。

全般に力むことなく、行書を書くような気分で、リズムを大事に運筆してみましょう。字形は、鐘繇に比べるとやや縦長で抱懷広く、はらいは長くゆったりしています。初唐の楷書に比べると緩みあるところに魅力を感じます。

筆は、前回と同じものを用いました。

かな規定 初段以上【六月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (二)

下谷洋子

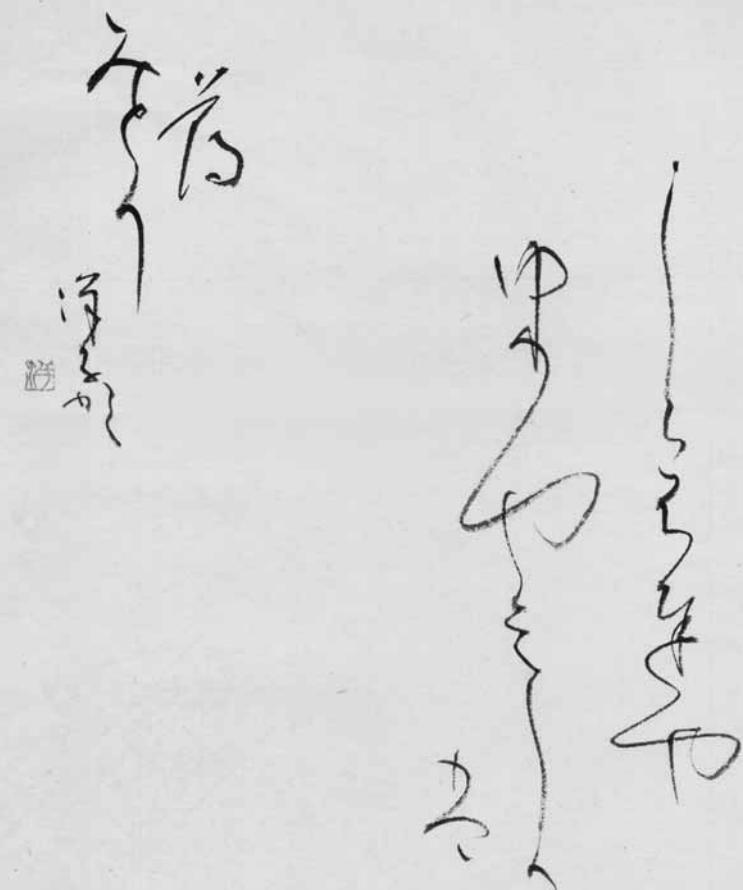
白藤や揺りやみしかばつすみどり
(芝)不器男

風に揺れる白藤の揺れやんだ瞬間
の印象をうすみどりとした句。

芝)不器男は愛媛県出身。明治から昭和にかけて活躍し、「ホトトギス」で新人として注目されましたが26歳で夭折しました。作風は情緒深く、この句は代表作の一つです。

藤の若葉や、その緑光まで捉える卓越したセンスを、どのようにかなで表現するか難しいところですが、皆さんの感じたものを書いて下さい。文字数の少ない俳句は余白がただの空間にならないよう、時には大胆に、ただ、過ぎると品格を失くします。

参考作品

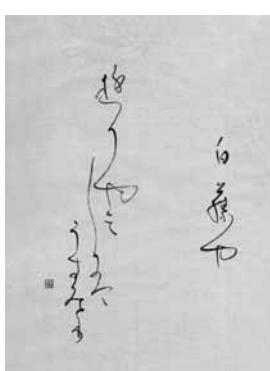


よみ方 白藤(しらふじ)不遜(ふそん)や揺(ゆ)り(利)やみ(み)しか(可)ば(盤)うす(薄)みどり

洋子かく(久)

創作

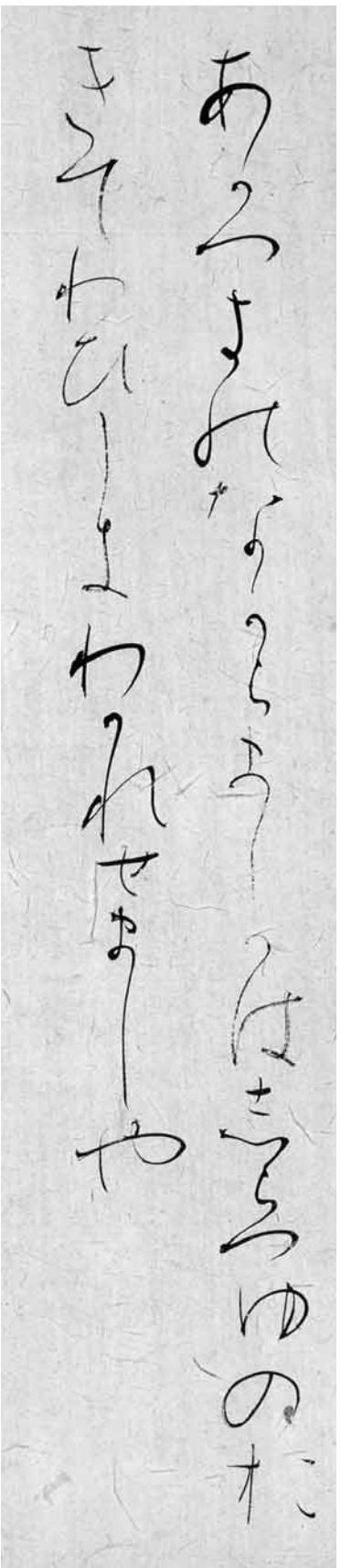
*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。



かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 あか(可)いき(支)の(能)なか(可)らましか(可)ばし(志)らひゆのお(於)

きてわびしき(支)わか(可)れせましや

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

須田清子選書

習い方解説 (二)

須田清子

たまほこのみち行人のことづても
絶えてほどふるさみだれの空

(藤原定家朝臣新古今和歌集)

1行の文字数が少ない、かな作品を仕上げるには、工夫が必要です。行間の間の取り方、墨継ぎの場所の変化等。この作品の場合、3行目、4行目の行頭に幅広の文字をあてはめ、最後の2行は文字を小さくして、作品全体の引き締め効果をねらってみました。

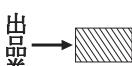


よみ方 た(多)ま(万)ばこの(能)み(見)ち(運)行(遊久)人のこ(古)と(登)づ(徒)て(亭)も(弔)

絶(多)え(惠)て(天)ほ(本)どふ(布)るさみだれ(五月雨)の空(曾)ひ

*印形形式に限る

創作



出品券

貼付位置

漢字条幅規定 初段以上【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

後藤大峰選書

習い方解説 (二)

後藤 大峰

14

千峰鳥路含梅雨五月
月蟬聲送麥秋トヨアシノヨコハタツノサマツノシキ

千峰鳥路含梅雨 五月蟬聲送麥秋
(李嘉祐)
(千峰の鳥路梅雨を含み 五月の蟬の声麦秋を送る)

書体=自由

今日は行書を主に書作しました。
根底には清末の「趙之謙」への意識があります。

重量感のある形態が特徴です。
筆力を養うには大変よい古典です。特に横画の線の「うねり」を感じながら書くとよい結果が生まれます。

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

高田幽玄選書

習い方解説 (二)

高田 幽玄

風薫る季節、さわやかな風が南
より吹いて来るという意味。

今月は古典の作風を参考にして
書いてみました。「九成宮醴泉銘」
は、きりりと引きしまった造型で、
楷書の極則と称せられています。
臨書は書学の基本ですが、倣書す
ることによって、古典がより自分
のものになるし、創作への第一歩
となると思います。

薰風自南來

幽玄書

四

書体=自由

薰風自南來
(薰風より来る)
(柳公權)

薰風自南來

東福青篁

夜明けの空が水平線の
近くで茜色に染まり、
万物の生命の象徴としての
太陽が、若々しく生まれ出る
莊嚴な一瞬。 青篁書

今日は日本画壇で著名な東山魁夷画伯の
隨想『日本の美を求めて』より出題させて
頂きました。日本の風景への憧憬と讃歌を
こめて綴られています。この中の「自然と
色彩」から選びました。

今回は日本画壇で著名な東山魁夷画伯の
隨想『日本の美を求めて』より出題させて
頂きました。日本の風景への憧憬と讃歌を
こめて綴られています。この中の「自然と
色彩」から選びました。

夜明けの空が水平線の
近くで茜色に染まり、

万物の生命の象徴としての
太陽が、若々しく生まれ出る

莊嚴な一瞬。

○○書

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用

△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

暮春 若葉 愛媛県 高知県
暮春 若葉 愛媛県 高知県

吹く風は早くも夏の気配を感じさせ

吹く風は早くも夏の気配を感じさせ

西川 翠 嵐

(楷書) 暮春 若葉 愛媛県 高知県
(楷書) 吹く風は早くも夏の気配を感じさせ

(行書) 暮春 若葉 愛媛県 高知県
(行書) 吹く風は早くも夏の気配を感じさせ

基本用語 「若葉」生えたばかりの葉。季節の言葉としては、新緑が美しい初夏の頃。

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を

(掲載手本90%に縮小)

◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 743

ペン字部 師範 秋 龍華

ペン先を自在に繰り豊かな筆庄を表現しています。文字の配列も良く品格ある美しい作品です。

◎ペン字部総評 概ね誤字もなく丁寧に書かれた作品でした。文字の大小、天地左右の余白、字間行間の取り方調和大切に。（雪枝評）



現代詩文書部 特選 村山 千華

疎密の変化が文字にも紙面構成にも生かされ次元の高い表現力となっている。白眉の作。

◎現代詩文書部総評 詩文をどのように表現したいかを一番に考えて取り組んで欲しい。（宗苑評）



前衛書部 特選 相内 珠莉

思い切った構図、直と曲のバランス、旋律を奏で明るい作品に仕上がった。

◎前衛書部総評 文字からの脱却に努力、空間の表現を一番大切に。（仙岳評）

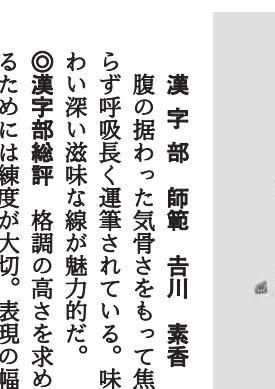


かな部 師範 小峰 美加子

動きのある強い線質で終始した

筆力は美事です。余白美良く深く出来であった。一部過大過小の字が見られ残念。印はかな半紙版に相応しい大きさ使用のこと。（明子評）

◎かな部総評 誤字もなく概ね良



漢字部 師範 吉川 素香

腹の据わった氣骨さをもって焦らず呼吸長く運筆されている。味わい深い滋味な線が魅力的だ。

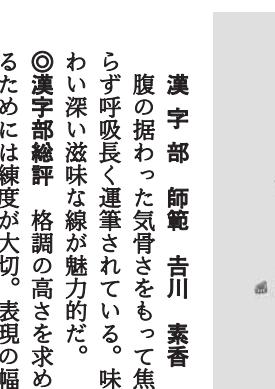
◎漢字部総評 格調の高さを求めるためには練度が大切。表現の幅も勿論大切。深い研究心をもつて練度を高めてほしい。（石雲評）



かな条幅部 準師範 鷲山 美梢

リズムよく大らかに書き切り、品位を感じます。俳句としての太細のバランスにも秀れ見事です。

◎かな条幅部総評 上位の方は佳作が多くかった。漢語で始まる時は大きさ墨量等少々控えたい。今日を今ふとは書きません。（洋子評）



実用書優秀作品

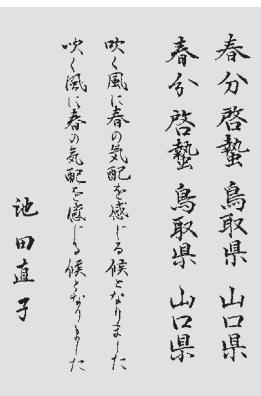
選評 大平邑峰

◎実用書部総評

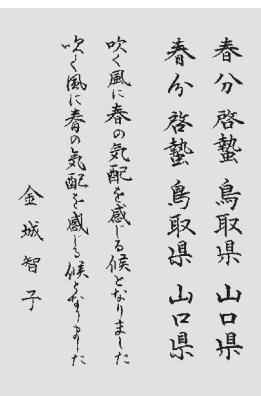
字の大きさにふさわしい筆(用具)、紙質に合う用筆法等、完成度を高める
為には是非考えて欲しいと感じました。

(邑峰評)

筆先を大事にした運筆により、線の表情が自然で行の流れもよい。



落ち着いた息使いと明るい伸びやかさで終始一貫している。



華誠	深和	大川	S	竹原	佳	紅瑠	桜草	たか	こ	澄	大雲	八街	誠和	楓会	大雲	附中	龜松	池田	特選
篠塚	久保	大島	及川	作	佳	蛭川	原澤	苗代	猿渡	加藤	井ノ口	池崎	鷺山	吉田	奥川	金城	池田	秀作	
謙天	香奈	由明	俊美	香里	一恵	香雄	佳	翠篠	右陽	峰	甘口	春峰	和美	裕	麗	智子	直子	入選	
心鈴	奈	竹鳳	美美	うり	う	玉川	梓江	太岩	井石	伊飯	青木	藍澤	高崎	白珠	書江	玉深	伊呂	秀	
秀斎	歌	久	木	作	大	啟生	高和	日水	田新	飯飯	高藤	高澤	西山	永井	玉井	千代	多胡	三千代	入選
陳野	佐藤	原千	藤千	佐	佐	大	平	新壑	無	澤	高	千田	田中	鶴見	春澤	嘉美	英晴	英晴	秀
鶴子	楊紫	芳	雪奈	流	芳	大	和	郁	英	香	郁	千田	田中	高橋	千	伯泉	嘉	嘉	入選
(選外)	名氏	名	略	泰	華	椿	八石	東土	春	倉	耕	立	天	や	有	華	佑	祐	秀
				蘭	華	椿	山柳	安三	松	浜	高	千	田	吉	満	祥	茎	茎	秀
				つ	仙	仙	柳	安	松	昌	丸	田	田	見	ま	文	白	昭	秀
				信	順	華	雪	芝	芝	野	浦	山	山	高	岡	哲	明	昭	秀
				溪	月	華	琇	瓊	樹	鷗	山	千	千	千	千	文	雪	哲	秀
				子	翠	華	華	華	華	鷗	山	山	山	山	山	里	白	昭	秀

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



選評 熊谷宗苑

麗智秀 史詠
芳美子 韶音

蒼綠陽子
風風子

選評 大石仙岳

松藤景雄
苑雪燁

和楓子
水雨燁

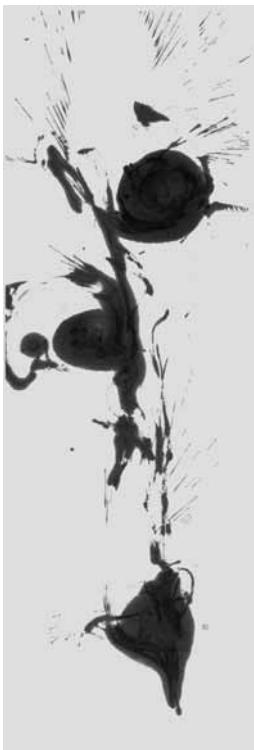
喜代美
街霞

蒼光
翠梢



大作の部

前衛書 (秀恵)
阿部雅悠
「背進」



◆宿墨による広がりある滲みが印象的。瞬発する飛沫が生み出す大きなりズムもまた魅力。基線をさらに際立たせ立体感を出したい。
(紅瑠評)

創作の部(27点)	漢字 - 3点
漢字の部(13点)	かな - 4点
現代詩(8点)	現代 - 8点
前衛(12点)	かな - 4点
臨書(10点)	漢字 - 10点
かな - 3点	漢字 - 1点

臨書 (紅瑠)
木暮千晶 「居延漢簡」

182×79cm



◆木簡書法に習熟し、筆の動きに躊躇いがない。線がのびやかで明るく、生き生きとした臨書作品。
(萬城評)

木暮千晶臨



現代詩文書 (翠苑)
佐々木 豊苑 「樹」

140×70cm

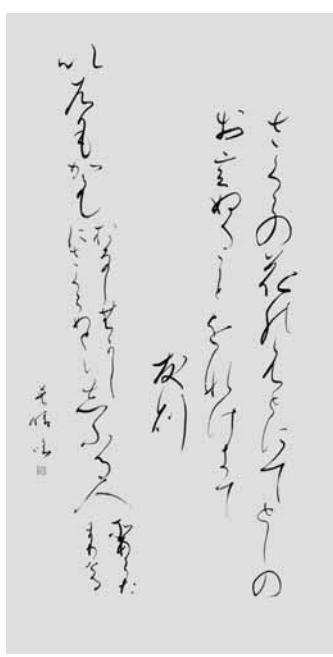


〈特選候補者〉
(創作の部)

〔漢字〕
もく 青木 藤漣
八街 新村 翠芳
宗苑 白井 真理
松風 西條 松雲
「かな」
もく 西川 藤象
蓮紅 本田 美雪
白珠 工藤 史音
月華 浅野 黄扇
月華 浅野 玉翠
澄春 新行 内芳蘭
紅瑠 金井 みどり
大雲 江本 香扇
大雲 宮原 香扇
「かな」
清月 境野 和子

〔漢字〕
もく 青木 藤漣
八街 新村 翠芳
宗苑 白井 真理
松風 西條 松雲
「かな」
もく 西川 藤象
蓮紅 本田 美雪
白珠 工藤 史音
月華 浅野 黄扇
月華 浅野 玉翠
澄春 新行 内芳蘭
紅瑠 金井 みどり
大雲 江本 香扇
大雲 宫原 香扇
「かな」
清月 境野 和子

総出品点数
40点



136×70cm

◆かなりの拡大臨書だが、細線が緩むことなく長い息で続いている。元永の円やかなリズムが実際に品よく艶やかで美しく見える。
(洋子評)

佐々木 豊苑 書
◆骨力のある「白樺」と「胡桃」が全体を引き締め、切れの良いかなが調和し、またまりの良い着実な作。
(蹊舟評)

〔漢字の部〕
澄春 新行 内芳蘭
紅瑠 金井 みどり
大雲 江本 香扇
大雲 宮原 香扇
「かな」
清月 境野 和子

漢字研究部
(居延漢簡)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



塚田美翠



真雅伸佳遼雪
葉悠子波香翠

洋瑞祥雅春玲
子華苑芳漱子

智桂育紅惠綠
恵子嗣華子河

雅白良篁美勝
心珠子右子江

漢字研究部 特選 塚田美翠
やや線が細いものの、原本の字形、用筆を
正確に読みとり表現し、運腕大にして明快な
リズムが生まれています。作者が楽しい気分
で作品に向かわれた様子が伺える秀作です。
◎漢字研究部総評
今回居延漢簡は、伸びやかで軽快なタッ
チの木簡で、懷が広くとられて明快な書であ
ると共に、線から線への筆脈を感じること

ができます。出品された多くの作品はその表
情をよく捉え、楽しく書かれた様子を窺い知
ることができます。ただし、この書の起筆は、
逆入の部分もあれば、露鋒の部分もあつたり
するのですが、その細部に注意をおこたつた
作も見受けられたのは残念でした。原本を良
く観察することが大切です。

かな研究部
(元永本古今集)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



一理真

清麻美

佳莖春

幹菁

琴扇優

耀美梢

恵葵華

生湖

武田宗楓

◎かな研究部総評

元永本も3回目となり、だいぶ手慣れてきた感じになりました。リズムが出てくるとさらにようになるでしょう。料紙の選択も成功の一因となりました。

字形や布置を正確に再現しようという意志が強じがうかがえました。あとは原本の特徴をいかにとらえるか、です。目を細めて見ること一つの方法です。

かな研究部 特選 武田宗楓

佳作賞

佳

和

作

60

書

佳

和

予告

2023・6月号(746)の「古典鑑賞」「古筆鑑賞」の課題

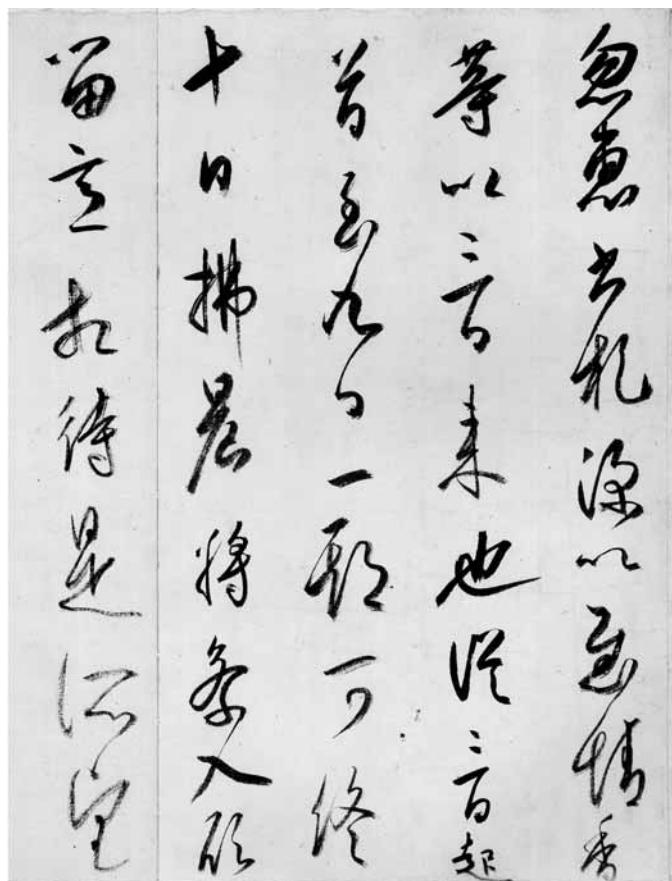
(7月15日締切)

古典鑑賞

457

空海
風信帖

③



(東寺藏)

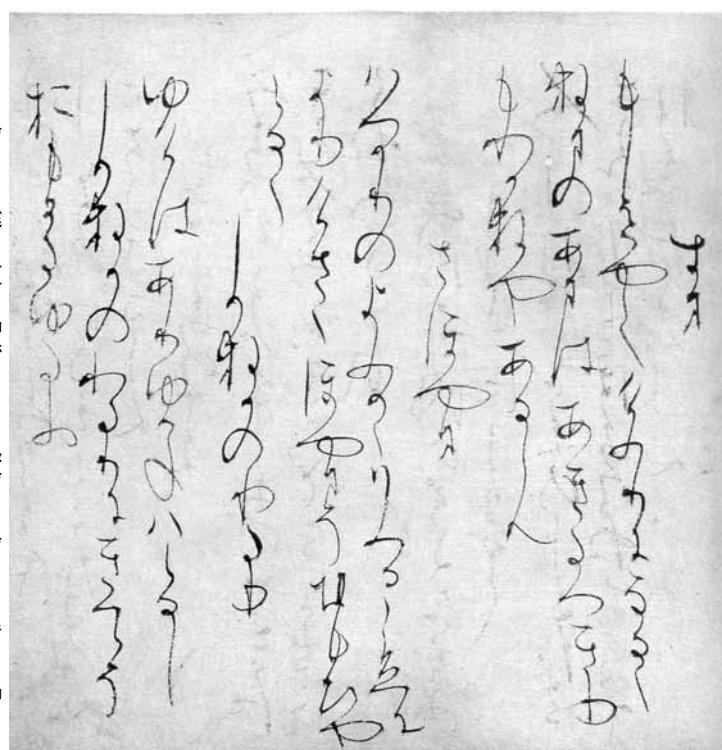
(掲載図版・40%に縮小)

古筆鑑賞

231

中務集
伝西行

③



(出光美術館蔵)

(掲載図版・75%に縮小)

忽惠書札、深以慰情。香等以三日來也。從三日起首、至九日、一期可終。十日松晨、
將參入。願留意相待。是所望。

（注）すま／もしをやくけぶりになる／すまのあまはあきたつきり／も
わかずやあるらむ／さほやま／はつきかりのよぶかゝりつるこゑに／よりけさゝ
ほやまぞおもひや／らるゝ／しかすがのわたり／ゆけばありゆかねばくるし
／しかすがのわたりにきてぞ／おもひたゆたふ

書

展



永井幸子先生「桜」



玉松会書展会場風景

新たなスタートを迎えた玉松会書展を拝見させていただいた。会場は春らしく様々な花が飾られ、展示された作品もかな書展の会場らしく色鮮やかな料紙や表具が目をひき、華やかな雰囲気の展示となっていた。玉松会を創設さ

昨年55回の節目を越えて、今年から新たなスタートを迎えた玉松会書展を拝見させていただいた。会場は春らしく様々な花が飾られ、展示された作品もかな書展の会場らしく色鮮やかな料紙や表具が目をひき、華やかな雰囲気の展示となっていた。玉松会を創設さ

会期＝令和5年4月4日（火）～4月9日（日）
会場＝鳩居堂画廊 3F・4F

第56回
玉松会書展 参観記
片岡 豪峰

れた永井幸子先生の遺墨を含めて出品作70点の作品が3階と4階に額やパネル、軸装、巻子、折帖、刻字など工夫を凝らした展示で来客者を迎えてくれた。永井幸子先生珠玉の作「桜」を拝見させていただき、暢びやかで流麗な表情の作品にうっとりさせられた。昨年の巻子「箏曲」にも魅せられてしまつたが、今回も思わず口ずさんでしまいなくなり、自然と足が止まってしまつた。隣に目を移すと、モダンなデザインの表装で、流れるよう書かれた石井明子先生の作品に目を奪われた。展覧会のたびに新たな趣向に挑まれていって、その意欲に心打たれた。また、会員の皆さん的作品も努力のあとが見られた。来年の玉松会書展の開催を今から楽しみにして春の銀座を後にした。

会期＝令和5年4月11日（火）～16日（日）

大平邑峰

第9回
小燕会書展

「そらみつ」訪問記

会場＝奈良県立万葉文化館

会期＝令和5年4月11日（火）～16日（日）

大平邑峰

第9回
小燕会書展

製カレンダーを使用したお洒落な作品は、互いに引き立て合い、楽しく拝見致しました。また、会場の一角落では、材木の端材に思い思いの字を書かれたものを流木に吊るしたユニークなモニメントが展示されていました。稻垣先生の書に対するこだわりと深い愛情、そして会員の方々の並々ならぬ熱意を感じた参観となりました。



会場風景



会場風景

●篆刻

【六月十五日締めきり】

〈出品規定〉

① 墓刻

(ア)課題による語句

(イ)原印自由

(出典の際、原印のコピー添付)

② 創作 語句自由



5月号 墓刻課題

- 印面の大きさは3.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

- ◎出品方法
用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

(墓刻)	
秀作(60音)	佳作(60音)
特選	特選
芳琴 小野寺幸喜	書泉 大雲
成田川 研研 櫻空	新栄雲 都丸 花盆
高陵 白香書	大雲 加藤澤 萬丈
須賀澤 由香	鷺山 花仙 美梢
平塚 静香	豪峰 万丈
(選外1名氏名略)	(選外1名氏名略)
(創作)	
秀作(60音)	佳作(60音)
特選	特選
生大 中畠 義則	中畠 義則
藤井橋本 伊澤	慈空 崩澤
龍仙 清麗雨	唯一 覚山
(選外なし)	(選外なし)
遊水 遊雲	唯一
荒川 赤星	坂本
空華 文庵	覺山
(選外なし)	(選外なし)

◎篆刻部総評

今回は全般に「聊」か低調な感は否めませんでした。それでも、真摯な作品が多く寄せられ、目に止まる印もありました。

次回に期待。

仕上げている。更に鍛磨されたい。

一か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

令和五年四月二十五日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 下 谷 洋 子

発行人 印 刷

アーティスト処理

株式会社 リンクス

印 刷

小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田一丁目六七

電話 (03)3861-1954

FAX (03)3862-1957

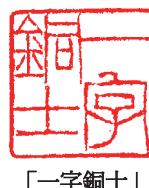
振替 00150-4135055

ホームページ http://www.lins.co.jp/shohei/

743号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

墓刻



「一字銅土」

創作



「善惡不二」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一丁目六七
東神田プラザビル三階
101-0031 電話(03)3861-1954
FAX(03)3862-1957

※お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

コロナ禍の中、当分の間十時～
十六時に時間の変更しております。

公益財団法人 書道芸術院